

創立149周年

学校だより



は
え
南風の子

中種子町立
南界小学校

令和4年10月20日

読書が与えるよい効果とは？

校長 安満 浩之

秋も徐々に深まり、読書をするにはよい季節となりました。本校では、年間100冊の本を読むことを目標としていますが、10月1日現在で1人平均58.5冊となっています。ところで、小学生が読書をするとなんがいいのでしょうか。よく言われるのが次の3つのことです。

- 1 集中力がつく。(読書は、文字を追いつけ、文章を理解しないと行けないため、テレビや漫画と比較すると集中力が必要です。)
- 2 人の気持ちを理解できる。(読書を通じて語彙力が高まり、人の話がよく聞けるようになり、コミュニケーション能力も高まる。)
- 3 言語能力が身につく。(小学生から多くの単語や漢字に触れ、読解力が身につくとともに、正しい言葉遣いができる。)

先般、行われた全国学力学習状況調査では、基礎的な問題については、概ね理解できているものの、国語では、「互いの立場や意図を明確しながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる。」算数では、「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて未知の数量の求め方と答えを記述できる。」などの正答率はよくなかったです。これらの問題は、書いてある内容を読み取り、吟味し答えを導き出す問題で、かなりの集中力と読解力が要求されます。

つまり、学力向上の面からも読書は重要なポイントとなります。小学校では、教科書など文字による授業が多くなります。本を読むことへの抵抗があると自分でどんどん読みすすめることができません。今、各学級から音読の課題が出されていると思います。国語の教科書だけでなく、算数や社会・理科など教科書を何度も読み込むことも大切です。

本校では、11月を読書月間に位置づけ、読み聞かせ活動や多読賞の表彰、おすすめの本の紹介などの取り組みを行っています。

御家庭でも秋の夜長、ちょっとテレビやゲームは置いて、親子で読み聞かせに取り組んでください。読み聞かせのポイントは、次の5つです。①読後の余韻を大切にすため質問攻めにしない。②話の途中で質問してお話を中断しない。③お気に入りの本は何度でも読んであげる。④忙しい時は避け、寝る前などゆったりした時間帯を選ぶ。⑤親が読むことを楽しみましょう。親子の絆も増すことでしょう。